

長崎あづま

漢字川柳

五
七
五
て
漢
字
を
詠
む

論
創
社

——本書を誰よりも親愛なるYわいに捧げる

本書を読む前に

漢字をさまざまに分解した後、それを筆順を基本に「五七五」の川柳仕立てにして詠むことを試みた。上の句に筆順ひつじゆん、中の句に訓くん、下の句に音おんと熟語じゆごを配するのを旨とする。例えば、「患」は「口」と「中」と「心」からできている。そこで、「口の中くちのなか 心こころ思おもう 者もの患者カンシャ……病やまひは気きから」と詠んでみた。

漢字は「形・音・義」の三要素からなるが、この句には形かたち（筆順）と音おと（音訓）と義ぎ（意味）が無理なくおさまっている。しかも漢字「患」の勘所、串にさされて痛む心の状態がきちんと押さえられ、ひとつのドラマになっている。

本書には簡単なルールがある。次頁の句で説明しよう。「ころも」の白マルは部首の名前、「ころもへん」の略である。句の左側には、その部首〔ネ〕が置かれる。部首の〔佳〕（ふるとり）は単にとりとした場合が多い。部首の〔ハ〕（ひとがしら）はひとである。

もし、黒マル（●●●）であれば部首の意味（例えば「あたま」は部首〔頁〕おおがい）か、書き順（例えば「くのいち」は部首〔女〕おんなへん）を示している。

句の「刀」の左側に置かれた**初**は、見出し漢字「初」の筆順がそこで終わることを示す。部首「ころも」と漢字「刀」で「初」ができるわけである。

この句にはないが、「カタカナ」と、「ひらがな」く・ひ・て・し・せも筆順を示す。

4
初
ネ 2

ころもぬぎ

〔ネ〕

かたなはじ

刀初めて

〔初〕

いれる初夜

シヨヤ

……………出初め式

見出し漢字「初」の上の4は「学年別」(一〇〇六字)の漢字で、この漢字は小学校四年で習うことを示す(1〜6もこれに準ずる)。無印は「常用漢字」(二二三六字)。もしそこに「外」とあれば「常用漢字」以外の漢字である。

句の終わりからのびる点線の下にある言葉「……出初め式」は、川柳の前句付まえくづけならぬ後句付あとくづけ(?)といったところであるが、句の理解を助けるためのものである。句におさまらなかつた見出し漢字の読み方とか、句の主人公を表す。川柳が小さなドラマである以上、そこに主人公がいるのは当然のことであろう。

句の中に主人公が隠れているばあいもある。その時は、ひきずり出して読んで欲しい。

「ころもぬぎ」の句でいえば、「ころも」を脱ぐ人を男性と考えれば主人公は「新郎」である

が、もし、女性を想定すれば「新婦」が登場し、句はより生き生きとしたものになる。そうなれば、点線の下言葉「出初め式」も新たな意味を帯びるだろう。

その他、説明を加えなければならぬ細かいルールがないわけではないが、読んでいて特に理解に苦しむことはないはずである。漢和辞典を手許に置けば楽しさも倍増しよう。

むしろ、少なからぬ駄作——馬くない一人がてんの駄作なり——が読者諸兄の貴重な時間を奪うのではないかと心配である。

その際は逡巡することなく句を棄て去り、是非とも、自らの「漢字川柳」に挑んで欲しい。その漢字は、その川柳とともに生涯忘れ得ぬ宝となるはずであるから……。

二〇一七年一〇月

長崎 あづま

【目次】はじめに

i

見出し漢字

iv

見出し漢字

x

主な部首の名称

1

総画索引

322

見出し漢字

〔常用漢字を中心に「一四五二字」を音順・画数順にならべた。ただし、漢字の上に「ひらがな」のつく漢字は訓読み、*のつく漢字は見出し漢字ではないが本文中にある。〕

威	易	依	位	餡	闇	握	隘	愛	挨	哀	扱	亜	ア	行		
4	3	3	3	2	308	2	2	2	2	1	1	1				
溢	逸	壺	育	芋	縵	緯	慰	遺	維	違	彙	萎	偉	尉	為	胃
7	6	6	6	6	308	5	5	5	5	5	308	308	4	4	4	4
鋭	影	詠	映	英	餌	鬱	噂	鰻	右	韻	隱	陰	淫	姻		
10	10	10	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	309	7		
遠	猿	援	媛	焉	宴	冤	怨	炎	延	闊	謁	越	悦	馱	液	疫
13	13	13	312	12	12	54	309	12	12	11	11	11	11	10	222	10
奥	翁	櫻	桜	毆	欧	押	凹	卸	虞	俺	汚	艷	縁	鉛	煙	
16	16	74	16	15	15	15	15	15	14	309	14	14	14	13	13	
訛	菓	華	荷	夏	架	佳	花	力	行	穩	温	乙	臆	憶	億	
19	19	19	19	18	18	18	18			17	17	17	17	17	16	
餓	雅	鎌	渴	垣	掛	蚊	且	刈	稼	箇	寡	靴	禍	暇	嫁	渦
23	22	313	22	22	22	22	21	21	21	21	20	20	20	20	20	19
崖	劾	亥	懷	壞	潰	塊	皆	悔	拐	怪	乖	改	戒	快	会	介
26	26	27	25	25	313	25	25	25	24	24	24	24	24	23	23	23
顎	楽	岳	穫	嚇	獲	較	隔	殼	郭	核	拡	概	蓋	該	慨	涯
310	309	29	29	29	28	28	28	28	27	27	27	27	309	26	26	26
勘	乾	陷	竿	看	姦	冠	肝	缶	汗	甘	轄	褐	滑	渴	喝	括
33	32	32	32	32	310	32	31	31	31	31	30	30	30	30	30	29
歡	管	慣	漢	幹	寬	勸	閑	款	棺	敢	換	寒	堪	喚	貫	患
36	36	36	35	35	35	35	35	34	34	34	34	34	33	33	33	33
危	企	己	癩	頑	眼	含	鑑	艦	灌	觀	環	還	憾	緩	監	
40	39	39	39	39	38	38	38	38	38	37	37	37	37	37	36	36

機	畿	輝	旗	毀	棄	貴	棋	幾	龜	喜	基	鬼	飢	既	婦	貞	軌	析	奇	忌	岐		
43	310	43	43	310	43	42	42	42	314	42	42	41	41	41	41	242	41	40	40	40	40		
		キエウ		ギヤク		キヤク		キツ	キチ	キク											ギ		
吸	丘	及	虐	逆	脚	却	詰	喫	吉	菊	議	犧	擬	戲	儀	疑	義	欺	偽	宜	騎		
48	48	48	47	47	47	47	46	46	46	46	45	45	45	45	45	44	45	44	44	44	43		
				キヨウ		ギョ								キヨ	ギユウ								
京	享	狂	叫	凶	御	魚	距	許	虚	拳	拗	拒	居	巨	牛	窮	嗅	救	糾	泣	朽		
53	53	52	52	52	52	51	51	51	51	51	50	50	50	50	49	49	310	49	49	49	48		
		キン				ギョウ																	
琴	菌	斤	凝	餃	業	晓	仰	驚	響	競	矯	教	強	脅	恭	恐	矜	狭	挟	峡	況		
58	58	57	57	319	57	56	56	56	56	55	55	55	55	54	54	54	54	54	53	53	53		
		クン		クツ		グウ	グ					ク	ク		ギン								
勳	窟	掘	屈	隅	遇	偶	愚	具	熊	窪	踵	繰	馭	銀	吟	襟	謹	錦	緊	僅			
62	315	62	62	61	61	61	61	60	60	60	60	60	59		59	58	58	311	58	314			
迎	鷄	警	稽	憩	慶	繼	詣	携	傾	敬	蚩	溪	揭	啓	恵	契	荃	刑	群	薰			
66	66	66	66	65	65	65	311	65	65	64	64	64	64	64	63	63	63	63	62	62			
																		ケイ	ケン				
遺	嫌	檢	堅	圈	喧	牽	險	軒	拳	兼	劍	儉	肩	潔	傑	結	決	激	擊	隙	鯨		
71	70	70	70	70	70	69	69	69	69	69	68	68	68	68	67	136	67	67	67	315	67		
雇	枯	弧	孤	虎	怙	股	巖	減	現	限	弦	玄	幻	懸	驗	顯	繭	謙	賢	獻			
75	75	75	74	294	3	74		74	73	73	73	73	73	72	72	72	71	71	71	71	71		
考	江	光	交	甲	巧	功	孔	護	誤	語	碁	悟	娛	呉	互	午	乞	込	顧	鼓	誇		
80	79	79	79	79	79	78	78	78	78	77	77	77	77	77	77	76	76	311	76	76	75	75	
港	慌	喉	控	貢	候	香	郊	荒	洪	恒	侯	肴	肯	拘	幸	効	攻	抗	孝	坑	更		
84	84	84	83	83	83	83	83	82	82	82	82	82	81	81	81	81	81	81	80	80	80	80	
惚	獄	酷	穀	刻	克	豪	傲	剛	拷	購	講	鋼	衡	稿	醇	綱	構	溝	項	絞	硬		
89	89	88	88	88	88	87	87	87	87	86	86	86	86	86	85	85	85	85	85	84	84		
詐	唆	查	茶	佐	左	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	
93	92	92	92	92	8					91	91	91	91	91	91	90	311	90	90	90	90	89	89

ア

【ア||亜 あ行||扱 アイ||哀 挨 愛 隘 アク||握 アン||餡】

亜

二 5

一口 || ひとくち

【亜】一つといえぬ

亜細亜なり

岡倉天心へ

一口 || ひとくち

【亜】一つといえぬ

亜流なり

『風土』和辻哲郎

扱

ホ 3

【扱】てをノばし

【扱】3人及ぶ

客扱い

鮭屋の板前

哀

ロ 6

【哀】けいさんし

【哀】口入れ屋

哀れ哀史よ

『あゝ野麦峠』

●岡倉天心「アジアは一なり」『東洋の理想』1872(明5)年。●山本茂実『あゝ野麦峠』は女工哀史の物語。「口入れ屋」は近年の風俗営業とは無関係、奉公口を世話する人のこと。

外
餡

魚 8

しよくへんの

クズ白でひき

餡にする

葛餡

握

才 9

てでコノ屋

握る力は

握力だ

キングコング

外
隘

β 10

さんびんハ一八い皿に

隘路あり

逆境

4
愛

夕 10

ノツている わたしの心 クタびれた

愛

挨

才 7

てムり矢り

てがたくたくタの

挨揅

選挙運動

●人間の「愛」はアガペー（神への愛）とエロス（性への愛）とに分かれるが、精神的か肉体的かを問わず、終局ではどちらも「くたびれる」ことに違いはないようである。

5
易

日 4

ひ
日びいわく

もち
易 勿ろん易は

やさ
易しく容易

たかしまえきだん
高島易断

ころも
依 衣

ちい
小さな古ぎ

ふる
依怙鼻屑

ままたはは
継母

依

イ 6

ころも
依 衣

たよ
頼る心は

イライシ
依頼心

はなよめ
花嫁

4
位

イ 5

ひとけいさん
〔イ〕

〔土〕
ソ一の位

くらい
第一位

ししさんこうかい
資産公開

【イ=位 依 易 威 胃 為 尉 偉 違 維 遺 慰 緯】

●部首〔土〕は「なべぶた」として知られているが、別名を卦算=文鎮の形に以ているので「けいさんかんむり」という。本書では一貫して「計算」の意味をあてて用いる。

偉

イ 10

(い湯) イーユだと 口くちで弁いえるの 偉えらいぞ偉人イジン.....

感謝かんしゃ

尉

寸 8

コニツふた 小さく示しめす 一寸ちよとは尉官イカン.....

尉

肩章けんしょう

為

心 5

ソための為に れハつかにいかり 為政者イセイシャに.....

為

為替かわせレート

胃

4
月 5

田たくさんの にくハづきが散ちる 太田胃散おたイサン.....

胃

常備薬じょうびやく

威

女 6

(野) ノニ女おんな ほハこで威おどして 威圧イアツする.....

威

アマゾネス

●「為替」はmoney-orderの翻訳。福沢諭吉(1834~1901年)『西洋旅案内』に「現金に替えさせるという意味に合わせ、為替(かえしめる)という漢字を当てて創作した」とある。

緯

糸 10

(意図) 糸いとたてる 糸いとつくり口くちで 糸いとう経緯ケイイ

緯

株主総会かぶぬしそうかい

慰

心 11

(子) 示しめす 一寸ちゅうとの心こころ 慰なぐさめ慰安イアン

慰

老母ろうぼ

遺

い 12

中一ちゅういちの 貝かいにしんにゆう 遺憾イカンなり

遺

父の遺言ちち ユイゴン

維

糸 8

くム小ちいさく 糸いとでふるとり 糸いとを維持イジす

維

維

織維せんい

違

い 10

たてろユ湯を 口くちで牛いうだけ しんにゆう間違まちがい ルール違反イハン

湯

違

●「中一」は、中学1年生の女子であるが、助詞の「の」を「が」に変えると「中1男子」が登場し、「貝」は無規定となり、蛸・蛤・赤貝・法螺貝のどれでもよいことになる。

【い行=芋 イク=育 イチ=壺 イツ=逸】 溢

芋

サ 3

サつとニて

干してはねれば

かんそ芋

保存食

育

月 4

けいさんし

ム月で育て

教え教育

新入社員

壺

土 4

さむらいワ

ひとつあいくち

壺万円

武士の商法

逸

し 8

ク日のし

免れしんにゆう

話すは逸話

戦争体験

(7日の死)

(逸)

●「逸」を分解すれば、「ク」「日」「し」(ノとして部首「儿」ひとあし)そして「し」である。「ク」を7、「日」を日で、「7日ノし(死)」と読み「し」で「逸」ができる。

隠

β 11

(31) さんびん

〔β〕

ツヨい心を

〔隠〕

隠し隠蔽

.....
 隠密同心

陰

β 8

(31) さんびんの

〔β〕

今ニ云ぬん

〔陰〕

陰口陰気

.....
 三二侍

姻

女 6

くのいち

〔女〕

かこわれ一人

〔□〕

〔姻〕

婚姻す

.....
 愛妻

【イン=姻 陰 隠 韻】

外
 溢

γ 10

みずハ一八い

〔γ〕

皿に溢れて

〔溢〕

溢水だ

.....
 脳溢血

●部首〔β〕(こざとへん)を「3」に「1」と書くので「さんびん」と読む。年取が三兩人扶持(さんりょう・いちにん・ぶち)であった江戸時代の身分の低い侍のこと。

あとがき

三十代の初めころ、内田百閒先生の全国を疾駆した『阿房列車』を読む機会があった。その中に「甘木君」が時おり顔をだす。先輩の百閒ファンから、甘木君とは甘と木で「某」、つまり「某」氏のことであると教わり、漢字は漢字でできているのだと感心した。

四十代の初めころ、夜の慰めに『誹風未摘花』を読むのが習慣になった。戦前には発禁処分を受けたこの古川柳の冒頭の句、「蛤は初手赤貝は夜中カなり」は忘れがたい。

ある朝、起きぬけに「ころもぬぎ刀初めていれる初夜」という句が浮んだ。『未摘花』のどこにあるのか確かめておきたいと思い探したが見あたらな

書いてみると、「ころも」は衣が漢字の左側の偏になる時の「ネ」（ころもへん）のこと、それに「刀」を加えれば「初」だ。句が「初」を詠ったものであることに気づいた。

漢字を分解して「五七五」十七文字で詠えないか、と思ったのはその時だ。思わぬところで『阿房列車』と『誹風未摘花』が出あったことになる。手当り次第に作ってみた。——「にくづきがソ一大きな朕である」「中一の貝にしんにゆう遺憾なり」「サつと目をワたしはとじて夢中」「ぼうハ母貝に慣らして習い習慣」……。

漢字のひとつひとつを丁寧に分解し、筆順にしたがつて五七五、十七文字の川柳としてまとめあげることには熱中していると、やがて僕が句を作っているのではなく、漢字が句をひねりだしているのではないか、という錯覚におそわれた。

最初は漢字をねじふせて句を作るような感じであったが、一〇〇〇字を超えたころには、いつしか漢字みずからが自らの句をつむぎ出した。表意文字の「意」が踊りだしたのである。

——全体の字数が一三五〇字ほどになったところでタイトルを『漢字川柳』として一九九五年に上梓することができた。それから二十余年が経ち品切れとなったが、ありがたいことにも今でも書肆には注文が舞い込むという。

今回、意を決して、二〇一〇年に新しく常用漢字になったものを中心に七四字を句に詠み、「総面索引」をつけて刊行することにした。読者諸氏のあたたかい理解が得られれば幸いです。

二〇一七年十一月

長崎 あづま

総画索引

この索引は、見出し漢字と本文中に収録した漢字を総画数の順に配列し、その部首とページ数を示したものである。

己 39	勺 116	刀 149	几 268	乙 262	ノ 311	一 48	与 284	丈 140	了 295	又 270	乙 17	【一画】						
尸 116	子 78	又 170	厂 279	匚 241	勹 276	冂 21	凵 52	冂 141	介 23	井 156	互 76	乏 262	屯 219	升 131	午 76	丹 188	【四画】	
叱 111	司 104	占 163	功 78	凸 218	凹 15	仙 163	井 316	巨 50	丙 252	且 21	丘 48	【五画】	牛 49	斤 57	斗 208	弓 195	玄 72	
札 99	甲 79	斥 159	必 241	込 76	豸 233	讠 123	扌 249	井 255	幺 284	工 8	尸 79	女 220	夕 316	女 210	夕 128	凵 120	右 8	召 131
劣 301	列 301	刑 63	充 123	光 79	伏 249	伐 232	仰 56	企 39	会 23	交 79	亥 27	吏 291	【六画】	立 82	矛 274	甘 31	玄 73	
汚 14	扱 1	忙 263	忒 220	巾 233	尸 149	子 180	女 277	夕 236	士 130	多 263	壮 170	吐 209	叫 52	吸 48	吉 46	危 40	匠 132	旨 104
垂 1	乱 290	更 80	【七画】	舟 121	缶 31	考 80	朴 267	朱 117	朽 48	肌 224	旬 126	迅 150	巡 126	芝 109	芋 6	江 79	汗 31	
吟 59	含 38	弟 185	即 177	却 47	励 299	努 210	助 130	冶 189	克 88	伴 233	伯 229	佞 316	但 181	伸 145	似 109	伺 104	佐 92	位 3
役 279	廷 202	床 132	岐 40	尾 239	尿 221	寿 119	孝 80	妖 285	妙 273	妨 263	妊 221	壺 6	坊 263	坂 233	坑 80	呈 201	吹 152	呉 77
邦 259	迎 66	芳 259	花 18	狂 52	没 267	沈 199	冲 193	沢 186	決 67	抑 287	扶 245	拔 232	把 224	扞 185	抄 132	抗 80	扱 1	快 23
豆 151	初 128	秃 316	秀 121	弄 304	妥 181	災 94	東 177	杉 151	肖 132	肝 31	攻 81	改 24	戾 300	戒 24	忘 263	忍 221	忌 40	防 263
刺 104	刷 100	刻 88	具 60	併 252	侮 248	侍 109	佳 18	依 3	京 53	享 53	乳 221	垂 152	乖 24	【八画】	里 291	辛 145	車 113	

漢字川柳——五七五で漢字を詠む

二〇一七年二月二〇日 初版印刷

二〇一七年二月二五日 初版発行

著者 長崎 あづま

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

TEL(〇三)三二六四―五二五四 FAX(〇三)三二六四―五二三二

Web:<http://www.ronso.co.jp/>

振替口座 〇〇一六〇―一―一五五二六六 〒一〇一―一〇〇五―

装幀 宗利淳一

印刷・製本 中央精版印刷(株)

ISBN 978-4-8460-1656-2

2017© NAGASAKI Azuma

落丁・乱丁はお取替え致しません

長崎あづま(ながさき・あづま)
一九四七年、東京生まれ。雑誌記者、のちに書籍の編集者。塾講師。